

客員教授紹介

内山 智裕 客員准教授(協力ネットワーク開発研究領域)
(任期:2016年7月~2017年3月)



2016年7月より、客員准教授として「アジア太平洋地域におけるサゴ資源の利活用に関する研究」を担当し、農業経営学の見地から、インドネシアを主なフィールドとしてサゴ資源の生産・流通の現場に赴き、生産コストや付加価値構造などの社会経済分析を進めております。その他、これまでに英国・米国・カナダなどの先進国における農業の担い手問題(新規参入、経営継承およびその支援政策)、韓国・タイなどのアジア地域における環境保全型農業の経営的評価などの調査研究を進めてきました。これらの調査経験を活かし、農国センターのスタッフの皆様の教育研究活動の一助となればと考えております。

略歴 1972年生まれ。1996年東京大学農学部卒、2002年同大学院博士課程修了(博士(農学)取得)。日本学術振興会特別研究員、英国プリマス大学客員研究員、三重大学助教・准教授、東京農業大学准教授などを経て、2016年10月より東京農業大学教授。

ルジト・アグス・スウィグニョ 外国人客員教授(協力ネットワーク開発研究領域)
(任期:2016年10月3日~2016年12月22日)



客員教授として農国センターで活動する機会をいただきましたことに心よりお礼申し上げます。在任中、学内での研究教育のみならず、学外の協力機関との活動など多くの経験を積むことが出来ました。インドネシアは2億5千万の人口を抱え、その数は日々増加しており、食料確保のため、2025年までに新たな耕地730万haを新たに開く必要があります。そのために、耕作に適さない土地の開発を行なうことが急務となっており、これまで名古屋大学をはじめとする日本の大学と共に、洪水多発地域における稲作の安定化に向けた抵抗性品種の育成と栽培技術の開発に取り組んできました。今後も、このような学術的な協力活動の振興を通じて、農村部の人々、とりわけ小規模な農家の人々の生活が向上するような豊かな社会の実現に貢献していきたいと思っております。引き続きご支援をよろしくお願いいたします。

略歴 1962年生まれ。1984年ボゴール農科大学卒業、1990年琉球大学大学院修士課程修了、1993年岡山大学大学院博士課程修了(博士(農学)取得)。1985年スリウィジャヤ大学農学部講師、2003年同大学大学院長(~2005年)・同大学副学長(学術担当)(~2008年)、2014年同大学農学部教授。

研修員紹介

SATREPSカウンターパート研修に参加して サイモン・ムゴ・ジンジュ



私は、2016年4月26日から9月30日まで、地球規模課題対応国際科学技術協力(SATREPS)「テラーメード育種と栽培技術開発のための稲作研究プロジェクト」のカウンターパート研修に参加する機会をいただきました。名古屋大学農学国際教育協力研究センターにおいては、イネの耐塩性や低土壌水分条件適応性に関する研究に取り組み、生育指標の調査、生理活性状態の測定、遺伝子解析、データ解析方法などに関する技術を高めることができました。また、毎週行われる研究室のセミナーにおいては、議論を通して知識を深めることが出来ました。日本作物学会第242回講演会にも参加し、最新の研究情報を得ることが出来ました。私は、今回の研修によって得られた知識と技術を今後の研究に活用すると共に、ケニアの若手の研究者に伝えて行きたいと考えています。研修の機会を提供してくださったケニア農畜産業研究機構、国際協力機構、科学技術振興機構および名古屋大学の皆様に深く感謝いたします。

略歴 1961年生まれ。2011年ケニヤッタ大学理学部卒業。2016年同大学院修士課程修了。1982年にケニア農業研究所(現ケニア農畜産業研究機構)技術補佐員として採用され、上級技術補佐員、技術職員を経て、2011年より研究員。